



木島正夫先生のご逝去を悼む

謹んで故木島正夫先生の御霊前に哀悼の意を捧げます。

先生の突然の訃報に接したのは、3月27日から3日間金沢市で開催されました日本薬学会年会の初日の朝でありました。年会に出席中の会員達は痛惜の念をもってとりあえず会場で黙禱を捧げました。この年会直後の告別式に当たりまして、日本生薬学会会員一同を代表し謹んで弔詞を申し述べます。

木島正夫先生は昭和11年に京都薬学専門学校をご卒業後、東京帝国大学医学部薬学科選科、京都帝国大学助手、講師を経て京都薬学専門学校教授、京都薬科大学教授、さらに京都大学教授、北海道薬科大学教授および同学長等、数々の要職を歴任されました。この間、生薬学・薬用植物学、また薬学教育一般にも大きく貢献され、ご退官後京都大学、北海道薬科大学および瀋陽薬科大学から名誉教授の称号が贈られています。

先生の生薬学、特に生薬とその材料に関するご学識とご業績は国内外で広く知られている所でありまして、生薬学研究者の多くが先生からのご指導、恩恵に浴しております。また公定書審議会の生薬部会長として日本薬局方の改訂に尽力され、正倉院の薬物調査、大学設置審議会等多方面でご業績をあげられる一方、中国を始めアジア諸国の生薬の調査と学術交流にも大きく寄与されています。先生を団長とする学術交流団に参加して見聞を広めた生薬学研究者は枚挙にいとまがないくらいであります。

日本生薬学会では先生は会の創設期から貢献され、会長を8年間お務めになりまして、名誉会員に推挙されておられます。また以上のご功績によりまして紫綬褒章および勲三等旭日中綬章が授与されています。本会は来年50周年を迎え記念事業が計画されています。先生はその50年の歩みを御身をもって示して頂ける存在でありましたのに、記念事業を待たずにご逝去されましたことは誠に痛恨事であります。しかし先生の生薬学研究の途がご遺族によっても立派に引き継がれていますことは、先生の御霊の大きい慰めと存じます。

ここに先生のご生前のご業績を称え、ご指導に感謝し、その温顔を偲びながら深い哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本生薬学会前会長 奥田 拓男

木島正夫先生ご略歴

大正 2 年11月11日	出生	昭和46年 8 月～昭和52年 3 月	文部省大学設置審議会専門委員
昭和11年 3 月	京都薬学専門学校卒業		
昭和13年 3 月	東京帝国大学医学部薬学科選科修了	昭和51年 4 月～昭和59年 3 月	日本生薬学会会長
		昭和52年 3 月	京都大学定年退官
昭和15年12月～昭和21年 4 月	京都帝国大学医学部助手	昭和52年 4 月	京都大学名誉教授
昭和21年 5 月～昭和24年 3 月	京都薬学専門学校教授	昭和52年10月～平成 2 年 3 月	北海道薬科大学教授
昭和22年 7 月～昭和51年 3 月	公定書審議会生薬部会会員	昭和52年11月	紫綬褒章 受章
昭和23年 9 月～昭和28年 4 月	宮内庁正倉院薬物第一次調査調査員	昭和58年 4 月～平成 2 年 3 月	北海道薬科大学学長
		昭和60年 4 月	勲三等旭日中綬章 受章
昭和24年 4 月～昭和40年 3 月	京都薬科大学教授	平成 6 年10月～平成 7 年11月	宮内庁正倉院薬物第二次調査調査員
昭和40年 4 月～昭和52年 4 月	京都大学薬学部教授		死去
昭和41年 4 月～昭和51年 3 月	日本生薬学会副会長	平成 8 年 3 月27日	